

第 101 回北海道・標津研修会の活動が 2月14日(火)の北海道新聞に掲載されました！

2017年2月14日(火) 北海道新聞

北海道新聞

2017年
2月14日
火曜日

発行所
北海道新聞社
〒060-8711 札幌市
中央区大通西5丁目4
電話011-221-2111
FAX011-221-2111
E-MAIL hokkaido@hokkai.co.jp

読者センター
011-210-5888
(札幌 毎日朝刊8時～18時)
ご購読申し込み
0120-464104

地域の魅力 体感

冬の観光留学生目線で

標津 首都圏から「雪の遊び」

【標津】外国人旅行者の受け入れ基盤づくりを考える事業の一環で、首都圏の留学生が8、13日、5泊6日の日程で町内を周遊し、スキーや雪原散策などアジアからの外国人旅行者に人気の高い「雪の遊び」を体験した。(樋口雄大)



履き慣れないスノーシューに苦戦しつつも、しっかりと雪を踏みしめる留学生たち

道観光振興機構の「留学生と創る外国人受け入れ基盤整備事業」で、町観光協会などが実施。冬の観光メニューの掘り起こしに生かすのが狙い。首都圏の大学や日本語学校に通う中国・台湾・東南アジア出身の留学生18人が来町した。

雪を見たことがない留学生も多かったため、かまくら作りや雪合戦など寒さを体感する体験メニューを準備。留学生は冬の標津を羨しみつつ、「一般家庭でホームステイをしたり、町観光協会が昨年制作した指をさしながら伝える会話集の見直しなどを行った。

一行は9日に町内のポー川史跡自然公園で雪原散策を体験。スノーシューを履き、そろいのスノーウエアに身を包んで公園内の散策路を約2時間ほど歩いた。途中、雪の上に残る動物の足跡を見つけ、留学生は「本

マシが見たことがない。すごい」などと興奮した様子で写真を撮っていた。

留学生からは雪を使った体験メニューが好評だった一方、標津町内の各観光地のアクセスの悪さを指摘す

る声なども上がった。

中国の広州から共立日本語学院(東京)に留学している呉芬妮さん(24)は「辺り一面の雪景色はテレビで見か見たことがないので、中国人は絶対好き。東京よりものんびりしているのもこの地域の良いところ」。

町商工観光課の本間英敏課長は「これからも外国人が来町しやすい環境作りに努めたい」と話していた。